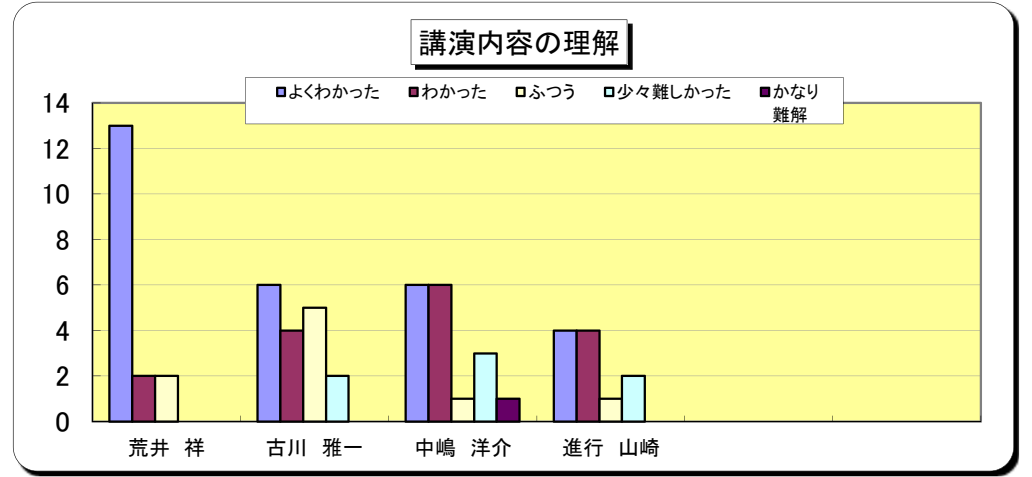


食のリスクコミュニケーション・フォーラム 4回シリーズ
 テーマ:「食の安心につながるリスクを議論する」第2回
 2014年6月29日(日)13:00~17:40
 於 東京大学農学部フードサイエンス棟内 中島董一郎記念ホール

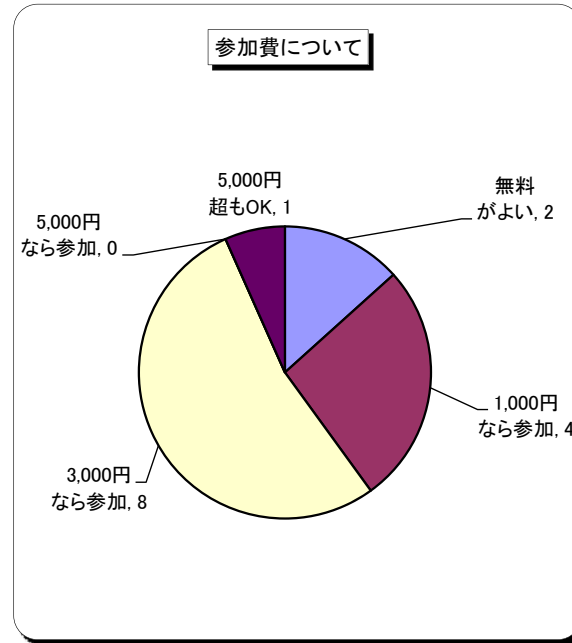


アンケート回収数17枚(参加者:36名、演者・関係者10名を除いた回収率:65%)

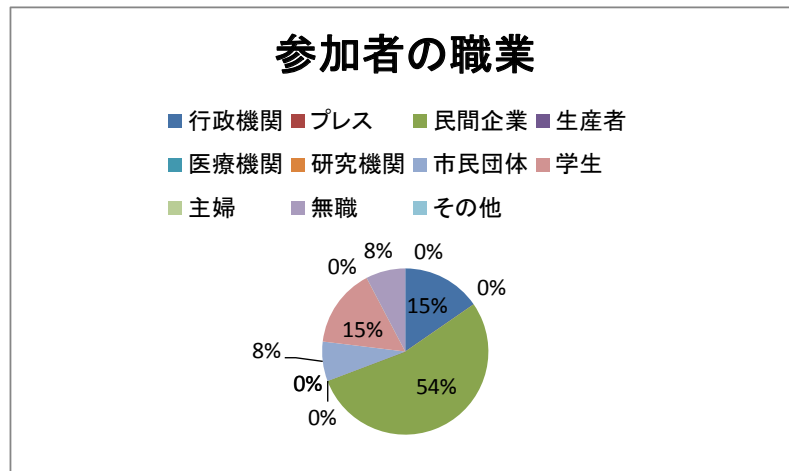
No.	テーマ	講師	よくわかった	わかった	ふつう	少々難しかった	かなり難解
1	食品添加物・保存料についての消費者意識とメーカーの取組み事例	荒井 祥	13	2	2	0	0
2	なぜ、消費者はわからなくていい情報なのか ~情報の捉え方と行動パターンを理解する	古川 雅一	6	4	5	2	0
3	食品の安全・安心と"コミュニケーション"	中嶋 洋介	6	6	1	3	1
4	パネル・ディスカッション:『食の安心につながるリスクを議論する』	進行 山崎	4	4	1	2	0
5							
6							



	無料がよい	1,000円 なら参加	3,000円 なら参加	5,000円 なら参加	5,000円 超もOK
今回のフォーラムについて参加費(NPOへの賛助)がいくらまでなら参加されますか?	2	4	8	0	1
今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。	(別紙)				
今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?	(別紙)				
当NPOがあなたにとって有益としたら、どんな事業活動を期待しますか?	(別紙)				
当NPOから季刊誌を発行しておりますが、無料購読を希望される方はあて先(郵便番号・住所・氏名・所属機関等)をご記入ください。	(別紙)				
当NPOから隔月でメルマガを発行しておりますが、無料購読を希望される方はメールアドレスをご記入ください。	(別紙)				



職業	
行政機関	2
プレス	0
民間企業	7
生産者	0
医療機関	0
研究機関	0
市民団体	1
学生	2
主婦	0
無職	1
その他	0



1	食品添加物・保存料についての消費者意識とメーカーの取組み事例	荒井 祥
---	--------------------------------	------

1	0
2	0
3	同じ食品系メーカーとして苦勞がよく分かります。マスコミが誤解するものは消費者も誤解するので、その対応は難しいと思いました。
4	消費者から相談の窓口対応をしています。添加物＝合成品＝危険と思い込んでいる人はとても多いので参考になりました。正しい情報を伝えていきたいです。
5	0
6	0
7	食品メーカーに勤務する者として共感できる場所がありました。消費者に理解してもらうことと同時に作り手として添加物について正しい知識を持たなければならないと思いました。
8	女性情報に「ユーザーがいない」ということは、じつはアクセスは多いのに気づかずに、もやもやしていました。
9	消費者への啓蒙に努力されている事は良く伝わった。
10	0
11	0
12	なんとなく食品添加物は、さけたほうがいいと思ってしまっていたひとりです。使ってあっても大丈夫なんだと安心しました。
13	スライドも分かり易くて良かった。
14	0
15	0
16	0
17	具体的な調査結果は参考になる。

2	なぜ、消費者はわかってくれないのか ~情報の捉え方と行動パターンを理解する~	古川 雅一
1	0	
2	0	
3	具体的に考えられるクイズがあり分かりやすかったです。	
4	0	
5	思考や判断を行う上で大変参考になった。	
6	0	
7	情報を受け取る側がどのように情報を受け取るのか、情報の投げかけ方で、どう受けとり方が変わるのかを理解することができました。	
8	リスコミもロコミ、体験談ベースでやるとよいのかなというパネルディスの話、たしかにデタラメ情報を出している側からも学べるところはあるのかも。	
9	具体的な応用例も提示してほしい。	
10	0	
11	0	
12	わかってもらって大変なことだと思いました。表現の仕方で印象がかわってしまうのに気づいていませんでした。古川先生の資料は黒い部分が多いのでメモがとりにくかった。	
13	消費者へ安心を与える具体的な言い方等の例は教えて頂きたい。	
14	0	
15	0	
16	0	
17	事例をいくつかあげたが必ずしも適切と思えず説得力がなかった。現象論的な解釈の紹介は何故？どう解釈を考えるべき？につながっていない。	

3	食品の安全・安心と”コミュニケーション	中嶋 洋介
1	0	
2	0	
3	時間が足りない中でまた聞いてみたいと思いました。	
4	0	
5	0	
6	0	
7	リスクとハザードに関するイメージを持つことができたと思います。またコミュニケーションと言っても、目的に応じて様々な形があり、その部分をしっかり捉えていかないと思います。	
8	ハザードはあって(全てのものに)それをコントロールできているから、われわれはプロなんだという話に全面同意します。安易に無添加とかやってそこから逃げるのはプロじゃないのでは(と負け犬のおぼえ)	
9	現状に対するご意見には参考になる部分もありました。食品安全とは距離があるように感じた。	
10	先生の心理学に対する理解が乏しく感じました。信頼や安全・リスクコミュニケーションについては社会心理学の分野で伝統的に検討が行われています。	
11	情報開示をジョハリの窓で例えられて、とてもよく理解できました。	
12	リスクのコミュニケーションとリスクコミュニケーションがちがうってわかったような、わからないような・・・範囲が広すぎたと思います。	
13	0	
14	0	
15	エビデンスがあますぎる。	
16	0	
17	スライドは面白いが何を言いたいか不明なのは掘り下げが不足しているためではないか？信頼の要因についての研究は多数ある(Risk Analysis)日本語では同志社の中谷内氏の図書を参照	

4	パネル・ディスカッション: 『食の安心につながるリスコミを議論する』	進行 山崎
1	0	
2	0	
3	聞きたい「リスコミ」の議論とずれていました。	
4	0	
5	0	
6	0	
7	0	
8	0	
9	0	
10	0	
11	0	
12	活発に議論されていることは感じとれましたが、私自身の理解力が足りなくてむずかしく感じました。	
13	0	
14	0	
15	0	
16	0	
17	個々の回答は必ずしも的を得ていない場合もあったが、司会の進行は要領よくされていた。	

7	今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。
1	0
2	ヒントを多く得ることができ良かったです。
3	立場によって意見が分かれていることが興味ありました。
4	実際に食添メーカーさんの話が聞けたのは面白かったです。分かりやすかったです。
5	0
6	0
7	どのような視点に立って物事を捉えるかによって、関わり方、アプトプットの仕方というものが変わってくるということを知ることができたと思います。
8	進行の山崎先生おつかれさまです。
9	0
10	もう少し専門的で踏み込んだ話題が聞けると思ったが、やや期待外れだった。
11	NO.2のご講演を聴いて同じ内容を伝えるにも、伝え方により受け手のとらえ方が全く変わってしまうということを知りました。
12	質問を考える時間が足りない。先に質問票をだしてしまって、あとから思いついたとき、わざわざ発言するまでもないなと感じてしまうので。
13	大変内容の濃い良いフォーラムだと思いますが、参加者が少ないので増やす方策を検討して下さい。
14	0
15	東京だけでなく京都でもやって頂きたい。
16	初めての参加でした。非常に良い勉強になりました。(特にケーススタディ的な情報提供が多かったため)
17	多様な方の話しを聞けることが良い。

8	今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか？
1	0
2	「食の歴史と現在の社会通念」
3	過去の事例をふり返る(トラブル・クレーム・事件)→どうすべきだったか？ 「フードディフェンス」は是非お願いします。
4	加工食品・健康食品・機能性食品の安全性について(カタカナ原料が多く用いられてる加工食品、機能性食品は危険という消費者イメージが多いので)
5	0
6	食品微生物(制御)に関する新しい情報
7	フードディフェンス、ISO22000 など食品を安全に製造する仕組みづくり、システムづくりについて
8	0
9	メディアの方のお話を聞きたいと思います。
10	実務分野と安心・安全と関わりの深い心理学分野とのコラボレーションを希望
11	0
12	ゼロリスクはないとのことなので、どんなリスクがあり、そのリスクを回避する対策(企業努力と消費者の行動)にはどうすればいいのか。
13	いわゆる健康食品とリスクの消費者への伝え方をテーマにして
14	0
15	双方向にコミュニケーションのあるべき姿について リスク評価者とリスク管理者間のリスコミについて
16	輸入食品・遺伝子組み換え・残留農薬etc 特に個別の要望はありません。
17	食の安全を達成するための様々の事業者の取組みや行政の枠組みの紹介が大切と思います。

9	当NPOがあなたにとって有益としたら、どんな事業活動を期待しますか？
1	0
2	0
3	外部での講演
4	0
5	0
6	0
7	情報提供
8	0
9	0
10	0
11	0
12	福島県産品の流通が震災前と同様に回復するためには、何をどう説明なり行動なりすれば、より理解がすすむか効果的か。
13	0
14	0
15	0
16	食の安全情報をシェアするML(メーリングリスト)の運営 発言力の高い方への情報提供や科学に基づいた声明の発表
17	東大という”ブランド”？を大切に中立、科学的な討論の場を生かしてほしい。